



畫本西遊全傳

二編

十



遠21
2500
40-20



特 遠 1
2500
40-20

油漬



繪本西樞記二編卷之十

油漬

前章之同

緒統金兜山の兇大王不側う宝貝を帶く兵番を収り取り取れぬ
 の孫行者諸天神も更小那妖を降をもつ能はと殆りたのま
 行者又思惟を回し諸神小向し曰我なり小再び天小屏
 我佛如来小同ハ佛必まを慧眼をりゆ大地四部列を觀る者
 這怪那方う妖大く園子ハ何の宝貝か多きを知らんぞ
 那を降とも安ん衆神是成さくをといトをれを行者又
 斗雲小駕く一瞬小雲山落下小至る小忽ち祥光四方小を
 其の中より人乃音有る孫悟空唐僧を護り西天小至るす却
 茲小きと何れと人あり行者驚れ頭を回し這人を

又比邱尼尊者なり。行者礼をなすと曰。我這こゝ小こきこるる。則すなはち唐僧たうそうの難がたを解とけし為ために如来にがひ小こ同どうす。有あり故ゆゑに比丘尼びくに白まをす。汝なんぢ怎麼いかんにま刺さすますますま。這こゝ小こ来きるる。何いかんにや。行者ぎやう曰まをす。我わが始はじめにま如来にがひの在あるる所ところへままま路みちをまたたすま。幸さいわい小こくく。汝なんぢ小こ遇あはあれる。我わがをま引ひきま。如来にがひの宝刹ほうしやく小こ行ぎやう比丘尼びくに承うけ引ひきま。遠とほ小こ行ぎやう者しや然しかちま雷かみ音ね寺てら小こ引ひきま。佛ぶつ小こ拜らい絹きん。斯かゝにま告つぐま。如来にがひ行ぎやう者しやをま近ちかくま。同どうくま宣のたまふま。汝なんぢ孫そん悟ご空くう前ぜん小こ觀くわん音おん菩ぼ薩ざく小こ命めい。汝なんぢ身みをま解げ脱だつせま。唐僧たうそうをま保たもつま。此こゝ小こきこるる。經きやうをま求もとめま。中ちゆう小こ息そく麼ま只ただ独ひとり茲こゝ小こきこるる。や行者ぎやう頭かぶをま叩たたかま。曰まをす。弟子だうし唐僧たうそうをま保たもつま。多おほくまの難がたをま凌しのぎま。西さい小こ赴しゆをま小こ金きん兜とう山さん小こ至しりま。一ひと個この惡あく大だい頭とう小こ逢あひま。名なをま咒じゆ大だい王わうとま云いふま。神通しんとう廣くわう大だい小こ師し又また徒た弟ていをま捉とめま。洞どう中ちゆう小こ苦くしま。いまふま。弟子だうし諸しよ天てん神しんをま

かこひこ苦く戰せんとま。多おほくまの數かず度た小こ及およびま。いまふま。那な怪かい一ひと個この圓えん子しをま以もつま。我わがホほクく兵へい器きをま把とりま。大だい長ちやう去きよいま。のの更さら小こ降かるま。多おほくまの能あたりま。とま願ねがひま。我わが佛ぶつ如にがひ來き茲こゝをまとま。をま擒とりま。唐僧たうそうをま救たすめま。謀まををま示しすま。とま敬あやまま。拜らいしま。求もとめま。如来にがひ少すこしまの慧えい眼がんをま以もつま。遠とほ觀くわんしま。早はやくまの知ち識しをまひま。行者ぎやう小こ向むかひま。宣のたまふま。那な妖よう小こ我わが是こゝをま知しるま。虫むし猥わい小こ鏡きやう破ぱとま。とま我わが今いま十じゆ八ぱつ尊そん羅ら漢わんをましま。宝庫ほうこをま開あけま。十じゆ八ぱつ粒りやくの金きん丹たん砂さとま各おのおの一粒いちりやくばま。とま汝なんぢ力ちからをま助たすけま。とま那な小こ提だいしま。行者ぎやう大だいいま。喜よろこびま。思しをま謝あやまま。佛ぶつ則すなはちま十じゆ八ぱつ衆しゆの阿あ羅ら漢わん小こ命めい令れいをま傳でんへま。各おのおの領りやう掌しやうしま。宝庫ほうこの裏うらよりま十じゆ八ぱつ粒りやくの金きん丹たん砂さをま取とりま。一ひと粒りやく完かんとま。とま行者ぎやうとま俱とも小こ祥しやう雲うん小こ駕か多た阿あ乃の手てしま。とま金きん兜とう山さん小こ看かん天てん王わう太子たいし是こゝをま見みるま。勇ゆうをま悦よろこびま。孫そん大だい聖せい早はやくま妖よう王わうをま呼よびま。とま

と勸むれ行者頓々拳頭を捻り涙目小到了罵く曰淫怪出来
 きと叫びぬれ小怪ホまきり今斯と報す。王怒り鎗をさし
 寶貝を帯く石門の外小跳り出罵く曰賊徒幾番となく我小
 負廻避なぐ又まつ云喝と何ぞぞ行者曰汝淫物ホ来るを
 怖ろくハ降服し唐僧師弟を回し慇懃小陪礼せを饒さん
 那妖が曰那三個の和尚もどお洗ひ淨らされ遠くすし宰殺
 し屠吃ひ骸骨ハ汝おぼさせん行者少く大い怒り拳を固め
 左手くれば妖王も鎗を縛り撞くくふ。行者右小跳り左小跳り
 くまきり緑を頃を回し敗走ら妖ハ是を討しハお手起り洞
 口を離れ南ふきさる。行者因分ふと即ち羅漢を招りハ羅
 漢羊空の中より金丹砂を把り妖ハを辟ハハ一畝小地

秘砂を片々急小頭を低し是を避る小。忽ち足の下三尺余
 の深き成され大い慌れ身を跳せ一層小浮上む又二
 尺余の深きから益驚かす足を拔出し那圈子をとて撒
 上ハ叫ぶ声おはれ十八粒の金丹砂を悉く奪り歩を回し
 く本洞へ飯里去ぬ羅漢ハ惆杲手を空しく雲の端小立行者
 迫り進み回し曰彼羅漢何ゆ金丹砂を降しおはさる。羅漢曰他
 一書叫びぬれ金丹砂悉く奪る行者笑し曰又是寶貝を抛り
 奪去りか。諸天神曰那厮己佛の力お及むと。今は何と
 うせん。おハ煩ふ。此の小降竜伏虎とハ二個乃羅漢行者小向
 ひ如來我ホ宣ひしあり。妖怪ハ神通廣大なり金丹砂を
 収めしを孫悟空小命し離恨天小昇り太上老君の所ふり

阿羅漢
拔金
丹砂
惱
獨
角大王



角大王

羅漢

行者



妖王が踪跡を尋問し、一鼓に擄ふと云ふ。行者曰、如來其何我乎、斯と告む。遠く羅漢を勞さむ。太上老君を見、身を揺らぐ。勅斗雲、駕直南天門。三十三天外、離恨天兜率宮に到り。老君は拜謁し、曰、老孫、唐僧を保す。西天に到り、經を需ん。一箇の阻礙あり。因に老君は問明けん。老君曰、西天乃道の阻、我何ぞ預り。知所あるや。行者曰、老君の宮中、小查あり。我改めん。裏面小令、西小着、東小見、皆鐵層の廊下を過行ふ。忽ち看牛欄の辺、小一個の童子、熟く睡り居る。青牛欄中、小あらず。行者立回し、曰、老君の青牛、那里へ去り。光君、大に孩た。這業畜、幾回走り、や。那童子を呼喚し、

曰、汝何の耽睡、牛をまき、や。童子曰、弟、子乃房乃裏、小一粒の丹を搦ひ、服し、いひ、其後睡まく。牛の走り、我知れず。老君曰、おれ、小我前日、火丹を煉り、七粒過す。一粒を落し、小汝拾ひ、吃ひ、や。那丹一粒を吃む。眠る。七日、小乃、那業畜、汝が眠る、人の看管なれば。下界へ去り。行者曰、業畜、や。寶貝を偷む。去るや。老君曰、急、小寶貝を查看す。小金剛琢をん。老君孩た。那厮、已小金剛琢を偷む。去る。大聖り。那が在地方を知。行者曰、現、小那厮、金兜山、乃洞、在。唐僧、師徒を捉、其上一箇の圈子、汝は我、金箍棒を始、小乃兵器を捨。老君曰、那金剛琢、乃、我、大を化。小の言、初、煉成の寶貝なり。汝甚、乃、兵

を憑むる水火の不能近付する。他は我芭蕉扇を偷
 去む我の奈何もなき能くは是二個の幸なり。いさか
 小のり業畜を収めん。芭蕉扇をとりて行者と俱小祥雲下
 駕運小金兜山小降。若托格天王天子緒神羅漢。是を
 迎へて礼をたす。老君行者小令。汝去て他を誘ひ出せ。我よく
 他を収めん。行者領掌し。跳く峰頭を下り。洞口小到。罵く曰。漢
 業畜快く出。光を受。妖が曰。這賊猴又誰を憑くまきりし
 や。鎗をとり。宝貝を帯。門外へ走り出る。行者一言。何答もせず
 起く。妖の起臉を強く。身を回して。跑出せ。那。暮。鏢
 鎗を縛。趕る所。忽ち高峰の上。小声有。我牛兒久。家小
 還。す。更。何日。待。や。呼。妖。妖。頭。を。甚。是。を。

太上老君の心驚胆戦。曰。這賊猴急。我主人公を憑
 き。や。惆。景。停。老君。咒。念。芭蕉扇をり。使
 一。下。扇。妖。子。を。老君。抛。回。一。扇。を。怪。刀。軟。舐。珠
 透。本。根。を。現。原。来。一。隻。の。青。牛。か。り。老君。金。剛。琢。小。仙。元
 を吹。け。青。牛。の。鼻。子。小。穿。一。袍。帯。を。解。是。ふ。け。片。手。小。率
 身。今。小。到。牛。鼻。小。拘。兒。を。穿。此。故。斯。老君。衆
 神。小。辞。青。牛。小。跨。彩。雲。小。駕。運。小。離。恨。天。回。行
 者。衆。神。俱。洞。裏。小。入。衆。の。小。妖。を。盡。殺。緒。神。の。兵。器
 を。把。還。一。旁。を。解。天王。太子。を。始。八。羅。漢。小。至。悉
 く。天。小。回。り。終。其。後。唐。僧。八。戒。沙。僧。を。解。放。一。白。馬。行。李。を。収。拾
 師。徒。四。人。洞。を。離。大。路。を。尋。道。を。急。き。ぬ



太上
老君
叔妖
魔



心君

佛

心君

心君

行者

西遊記三卷第十一

六

得全吞殮懷鬼子

黃婆運水鮮邪胎

河小路傍小声有。唐僧们每を吃し去と呼者あり。三藏亦其
 を去る。大い怪し頭を回して是を思ふ。即ち金兜山の山神土地
 かり。紫金の鉢盂を捧ぐ。曰。是ハ孫大聖向化し。結ばるる飯
 長老大聖の良言を聴む。悞ら妖小捉られ。大聖を勞し。捕
 く免るるを好。此飯を吃し。行者孝恭の厚子を知りし中なれど
 三藏洞を流し。我園子の中を出さ。殺身乃害小遇す。死ハ
 戒か言小迷ひ。死地小陥り。多く徒弟を煩はせりと云。行者八戒を
 守り。曰。這妖子我禁戒を信ぜず。師又を逐し。這大難小遇し。先
 づり。老孫天を翻下。地を覆し。天兵と水火と我佛の丹波し。結
 結き。魚方を妖を降す。能く漸如来の根原を指す。

小侍。純小老君を踏き。収伏し。以ほり。禍を引出
 さむ。妖怪より先小汝を撃殺す。妖を多れ。八戒頭を叩
 罪を謝す。三藏も深く行者が勞苦を謝す。四人那存飯を吃し
 ろ。尚熱氣騰々温れ。行者訝し。此飯汝小預け。吾河を
 小尚温。何ゆ。同土地跪。曰。小神大聖乃功完を賞し
 く。温めき。行者其厚情を謝し。師徒快く吃し。終に鉢盂
 を収拾。土地山神小辞し。又西小向。風小飢。水小宿。行
 數月。陽春の同。前路小。道の小河あり。水澄々
 波漣々。三藏馬を勤く看む。河乃那辺小柳蔭碧を垂
 く。微小茅屋幾椽あり。則ち徒弟小向。曰。那人家定く。渡
 あ。汝呼。此河を。八戒。行李を放下。高

呼く曰。擺渡的船を撐きしれと連呼う四五声及びび。只看那裏
 面より一人の者出きし。船児を掉さし東岸小着旅客快く船小
 棄く河をさしりゆへと云。三藏亦馬を下りて近付るふ。且一個の老婦
 人なり。三藏怪しと問く曰。汝は是擺渡りや。婦人曰。貴意乃て
 渡守なり。行者曰。稍公何ゆへあさし。稍婆小船を撐しむるハ
 縹より有る。老婦微笑く答ふ。二藏師徒ハ白馬行本を把く
 船小棄終ま。婦人頓く埠を揚く。西岸小着。三藏師徒岸小登
 里包を肩た。幾文の錢鈔を取。他小ふる。老婦更ふ。寡と
 争し。纜を樹に拴在。嘻々として笑く。屋の裡へ入ぬ。三藏河水乃清
 を乃々八戒小分付。我今口渴なり。汝鉢盂を把。些の水を齎。来
 里吃せしめよ。いふ。哉。子白。我ゆ。些吃ん。をを。り。と。直

小鉢を白取。師又小。三藏。飲残。を八戒小。首。を
 飲子。接来。只一氣。飲乾。快々。三藏。小。杖侍。馬。行。処。小。二藏
 馬上。小有。呻吟。我甚。腹痛。と。八戒。面。を。皺。て
 我。頻。腹痛。り。と。同也。沙僧。白。我。是。冷水。を。飲。ゆ。
 か。と。い。ふ。三藏。大。声。喚。痛。已。小。取。糸。と。て。馬。上。小。前
 煩。心。戒。中。路。頭。小。下。時。び。疼痛。小。堪。く。大。声。小。泣。く。と。肚。を。摸
 る。漸。く。小。肚子。大。血。團。肉。塊。有。り。と。わ。れ。驚。た。悲。し。む。大。く
 か。守。行者。沙僧。ゆ。り。と。あ。ま。う。る。前。路。小。村。舍。有。り。樹。の。梢
 小。兩個。の。草。把。を。挑。り。行者。曰。師。又。皆。同。疼痛。を。忍。ひ。ぬ。那。村。小
 酒。賣。家。有。り。と。見。え。り。老。孫。行。く。熱。湯。を。請。き。り。と。飲。免。且。薬。り
 賣。者。を。尋。り。買。求。腹。痛。を。治。せ。し。三藏。若。痛。り。中。め。是。を。守。て



西遊記三編卷十



三藏
師弟
到女
國人

西遊記三編卷十

九

大不悦ハ。徒弟小杖られ。村舎門口小至マ。馬を下マ。タラ。那
 門外ハ。一個ハ。老婆あり。坐レ。寐を績居。行者進。同
 く。我。們。大。唐。西。天。小。往。者。前。小。師。又。兄。弟。河。水。と
 吃。一。肚。腹。脹。痛。む。甚。一。汝。藥。賣。店。あ。る。バ。教。ト。ワ。老。婆。々
 々。大。小。一。和。尚。們。の。河。水。を。飲。一。ヤ。不。好。々。先。々。家。内
 へ。解。を。脱。マ。進。レ。云。行。者。マ。扱。子。細。一。と。あ。め
 と。巴。三。藏。を。杖。け。沙。僧。ハ。八。戒。を。杖。レ。ハ。兩。個。を。声。々。喚。々。肚。子
 を。押。一。面。黄。々。眉。を。雞。々。草。舎。乃。裡。小。坐。ト。行。者。老。婆。女。向。ハ
 一。曰。汝。些。の。湯。を。焚。ク。我。師。又。小。子。よ。我。尊。ク。謝。セ。ン。と。云。ど。の。老
 婆。ハ。湯。を。焚。レ。モ。せ。守。裡。小。坐。入。一。二。三。人。の。婦。人。を。呼。き。一。唐
 僧。を。望。著。一。目。を。細。一。嬉。笑。軀。を。行。者。大。小。怒。マ。大。眼。と

見張牙を二蹶て睨れ。婦人ハ。大。小。恐。マ。樽。つ。倒。一。一。逃。入。を。行
 者。腕。を。伸。ク。老。婆。を。搔。爬。一。扯。住。れ。バ。老。婆。謝。ク。曰。我。湯。を。焚。テ
 長。老。小。子。の。腹。痛。治。マ。一。和。尚。先。敘。一。其。解。を。脱。マ
 せ。マ。一。行。者。マ。漸。々。手。を。放。一。レ。老。婆。女。曰。這。里。ハ。是。西。梁。の
 女。人。國。中。一。這。一。國。悉。ク。女。人。の。一。少。ク。男。子。カ。一。故。小。和。尚。未。を。ん
 一。歡。喜。マ。カ。リ。那。河。を。子。母。河。ト。シ。リ。又。王。城。乃。外。小。迎。陽。館。乃
 一。彈。あり。彈。門。乃。外。小。泉。あり。号。ク。照。胎。泉。一。云。此。里。の。人。年。二。十
 一。以上。小。及。一。那。河。水。を。飲。然。一。一。忽。チ。肚。大。小。痛。む。是。即。一。肚
 一。脹。一。印。あり。扱。三。日。を。過。一。那。照。胎。泉。小。到。一。影。を。写。一。リ
 一。双。影。右。を。見。レ。ハ。孩。兒。を。降。生。小。定。一。也。今。長。老。亦。那。河。水。を。飲。一
 一。ハ。肚。痛。一。ハ。是。胎。氣。一。一。乃。日。暮。一。一。孩。兒。を。生。一。一。一。

息麼熱湯のよく治と外をくんと結るゆゑに三藏はよく大の強き
 已小斯のくくくを息とと命れんと肚をぬくと泣悲しく歎子
 の仰天し。我門男の身より子を胎す那の穴よりう生ゆ死と憫惑
 行者笑て曰古人の言あり死熱とれが有る落ると臨産の即
 小至るハ服下より裂り産出かると云懼せるハ戒はく筋が骨抜
 る恐き慌罷了と死了と注とれれば沙僧笑ひて曰二哥々々
 あより腹をぬめると勿れ腸を錯胎前の病を做し歎子益洞
 を流し行者を拜せり曰師兄這老婆小問。近里小手の狂れ穩
 婆があはちのまをせり今痛と緊く一會一陣肚の塊動くハ推
 陣疼をくく三藏曰婆々這里小医家かかたあは行て一胎の墮
 胎薬を買いきりり我小服さ胎を歩下けさせよと猪ぬ元

婆り曰由も薬あり墮胎とるるタケ但し這正南の小一坐の解陽
 山破見洞と云処あり洞裡小一個の落胎泉あり那井裏の水を
 汲来りて一口飲む能胎氣を解下とされども今ハ取ぐ。其
 由々向年如意真仙といふ人きり。那破見洞ふきり。任名を改
 る聚仙庵と号し落胎泉を護る敢て狂々く人小とを若
 水を要んと欲する者ハ羊酒果盤を捧げ志誠小拜し要じ生
 此一碗の水を賜へ。今看る長老們ハ是行脚の僧何ぞ好まの
 錢財を出し供物を買ふをば。只余を待時を候し生産
 のへと銃を歩行者満心歡喜又問曰這里より那解陽山近ら
 幾程の路程あるや。婆々曰三千里小余きり。行者曰好了々々
 師又心成敬し老孫く水を取きり我待り。老婆小請く一



三藏 八戒 食河 水懷 鬼孕

西遊記二編卷十

十二

乃丸鉢を把草舎を出雲を縦去りて老婦大の強は這和尚雲小駕ゆを會しりてて礼拜し。是より三藏師徒を活佛く尊び前乃婦人を呼出しりて礼拜させ湯を焚飯を調りてかきつぬ抱しり。斯く行者ハ女頂小解陽山小到り雲頭と接く觀看小背陰所ハ一所ハ庄院あり侍進至りて一人ハ老道士緑茵の上小坐し居り。行者瓦鉢を放下礼をあす小道士問く曰。汝ハ何方より来り者ぞ。行者曰。貧僧ハ東土大唐の者なり。欽差を奉り西天ハ赴た經を要んとす。然る小師又誤り子母河の水を飲肚疼り禁しりて曾く土人の説を中む。是胎氣を結成とぞ。又寶山小落胎泉ありと承り。特きりて如意真仙小拜謁し此の水を求め師又を救りしす。願くは真仙ハ所在を指し

りて道士咲く曰。此所就ち破見洞と云い今改り聚仙庵と号し我那如意真仙ハ徒弟なり。汝ハ名を何と称や。行者答り曰。吾ハ三藏の大徒弟孫悟空と申者なり。道人又問り。汝ハ花紅酒社那里小有や。行者曰。我們ハ是行脚ハ僧一物を貯へど。只些の水を乞ひ要んとす。道人咲く曰。我老師又此靈泉を護任り寝りて今送ふらど。汝回去り禮物を毎へまされさもなぐハ通報しり。行者や返り先へて老孫ハ名を説真仙と申す禮物を食らさ。井の水を盡して我ハ贈らん。道人此一言を中り憫み走りて斯く報りたれど。真仙一度孫悟空ハ名を中り勃然と怒り素服を脱ぎ道衣を穿ち。手小把り如意をとり庵門を蹴り出り曰。孫悟空何里小在やと叫。行者言小礼をかり貧僧即ち孫悟空なりと云ふ

真仙眼を瞑らりて曰。汝が師又ハ唐の三藏とや。あつた汝路より
 聖嬰大王の會する在る。行者曰。他ハ火雲洞の紅孩児と
 深姪なり。先主何の爲是を問や。真仙曰。他ハ我舎姪なり。我ハ是
 牛亡王の舎弟なり。前小家兄音信きまりて我小告ね。唐の三藏の
 後弟孫悟空といふ深猴。我見を害せりと。是ハ依り我汝をさすの
 仇を復さんとありす。何ぞ唐僧ハ胎氣を解り神水をさす
 つれと罵らぬ。行者笑く曰。先生差まり。汝ハ舎兄ハ就ち我と結
 拜弟兄なり。又那令姪ハ正果ハ飯と観音菩薩ハ隨ハ善財
 童子とあり。何ぞ我を恨むる。真仙益怒り曰。這深猴
 何ぞ多言なる。我舎姪独称く王と有りハ深。人の奴と成く
 何の好る。我這如意を吃して。行者之をけ撃く。か

孫行者も慕燥鉄棍を掬りて。闘やう十余合。其棒滾々として
 流星の如くなれ。真仙筋力勞き如意を抱く山。敗登る。是
 どの行者是成起んとせ。却る庵内ハ水を尋ん。然るハ
 前の道人早々庵門を閉り。行者手ハ瓦鉢を拿て。門前
 まで至り。金脚を上り。門を踢破り。進み入。那道人井欄
 より。井を守り。行者棒を上り。道人を撃んと。これハ道人
 々競々逃退く。其間ハ行者吊桶を尋。より。已小水を汲ん
 たる前。真仙又走りき。如意を把り。行者が脚を引け
 歩跌。行者急小肥起棒を使。撃んと。これハ真仙早々逃
 く。又水を汲んと。これハ他又走りき。行者が脚を引。行
 者大ハ焦燥。左の手に棒を掬。右の手に吊桶を振。水を汲

行者が脚の如意を鉤ひ引跌す。此
 時行者より索子を去放りたる。吊桶と索子と。井の中
 落込どり。行者大に怒り棒を論じ。擧んと。これぞ直仙早に逃
 去り敢て敵せんと。茲に於て行者暗想し。さういふ吊桶を落
 したる水を汲み。能り。水を汲んと。他又さう。妨
 かん。一旦回里。幫手を呼き。水を取んと。就ち雲頭。跳りあがり
 逕に村舎。小回。三藏疼痛。堪む。呻吟。八戒。嘍。色。え
 ど。行者哀れ。入り。三藏。向ひ。前。條。を。繞。り。一。遍。此。般。沙。僧
 と。俱。小。練。を。殺。け。水。を。取。き。り。い。く。と。云。小。三。藏。泪。を。流。し。曰。汝
 們。兩。人。那。山。往。を。我。と。八。戒。維。有。て。伏。侍。せ。ん。全。の。老。婆。が。曰。羅。漢
 心。を。放。し。我。ホ。く。伏。侍。せ。ん。行者。曰。汝。們。女。流。の。輩。恐。く。そ

師又を穢し辱し。老女が曰。我家都て四五口。皆幾歳年紀。風月
 の心を。昔て羅漢。迫り辱め。長老。弟。二。家。小。到。を。皆
 年少の者。の。め。く。放。ち。去。り。む。ど。二。定。交。合。せ。ん。を。要。め。ん。假。不。徒
 とも命を害さ。ふ。至。り。や。ん。行者。口。く。繞。小。心。を。放。し。老。婆。小
 吊桶。と。繩。と。成。要。め。汝。僧。と。俱。小。雲。小。駕。り。去。る。が。羊。阿。む。り
 あり。解。陽。山。小。至。り。雲。を。按。下。り。逕。小。庵。の。外。小。至。り。行者。汝。僧
 小。示。し。る。ハ。汝。と。小。解。着。我。真。仙。と。交。戰。機。小。乘。し。汝。庵。裡。小
 今。く。水。を。汲。取。り。去。と。令。し。其。身。ハ。棒。を。掣。手。門。外。小。進。り。門。を。開。き
 て。叫。々。々。如。意。真。仙。大。に。怒。り。深。猴。又。き。り。て。我。神。水。を。偷。ん。と。こ
 ころ。如。意。を。揮。り。擧。り。行。者。棒。を。使。り。急。架。門。外。中。に。挑
 戦。一。歩。二。歩。と。練。引。し。遂。小。山。坡。の。下。ま。く。鉤。出。り。戦。小。そ



行者汝僧
反於解陽
山落胎泉

西遊記二卷之十

沙僧いんげん呵あハハハハハ吊桶つらぐを提ひ着け門内かどへ進すすみ入いる。那道人などうじん井いを守まもりて汲くみせど支さへられ。沙僧いんげん吊桶つらぐを放下あきらま杖つゑを把とり道人などうじんの左ひだりの肩かたへ強つよくおたれど。大おほい小こ怕おそま逃にげ去さり。沙僧いんげん早はやく吊桶つらぐとて井中いなかへ下くだり満み々と汲くみ取とり庵あん門かどを走出いる。雲くも小こ跳はり高たかく呼よび曰いふ。大おほい哥あハハハハハ。大おほい水みづを汲くみ取とり。今いまハ其その者ものを饒ゆるし回まわりて。行者ぎやう中ちゆうへ大おほい小こ飲のみび。真ま仙せん小こ對たいひ曰いふ。師し弟てい已い水みづを取とり去さす。因ゆて具ぐく汝なんぢを饒ゆるさんと。真ま仙せん大おほい怒いかり。如ごとく如意にぎぎを以もつ。行者ぎやうが脚あしを鈎かぎ踏ふさん。子こ行者ぎやう肉にくと身みをくわく一いつ交まじふ如ごとく如意にぎぎを奪うば取とり折をり。兩ふた段だんへかへ又また拿とり。四よ段だん小こ折をり。擲なり。曰いふ。淫いん業ごう畜しゆく是こゝろはゆくも猶なほ无な礼れいせんや。罵ののしと罵ののし。妖まじ仙せん戰いくさ々々競あそぶ頭あたまとくく跳は去さぬ。行者ぎやう呵あハハハハハ。云いふ。跳はり上ある。正ただ小こ是こゝろは有あり待まち待まち。真ま鉛えん若にが鍊れん須す真ま水みづ。真ま水みづ網あみ和わ真ま承じやう乾かん。

真乘真鉛无母氣

嬰兒狂結成胎像

推倒傍門宗正教

靈破靈藥是仙丹

士女施功不等同

心君得意笑容還

斯かくく行者ぎやう沙僧いんげん真ま水みづをけり喜よろこび徑みち小こ村むら舎や小こ回まわりきく。小こ那な獸獣子こ肚はらを腫はれ着けり。門かど小こ倚より。里さと喚よび居ゐり。行者ぎやう戲あそぶ。曰いふ。飲のみ子こ何なに同どう占せん房ぼうとらるや。八はち戒がい法ぽう曰いふ。哥あハハハハハ。戯あそぶ。水みづを取とり。曰いふ。沙僧いんげん曰いふ。已い水みづを取とり。来きり。房ぼう内うちへ入いる。八はち戒がいも。苗な苗なて。裡うち面めんへ。三さん藏ざう兩りゆう個こを。徒と弟てい快たく水みづを飲のみせよ。と。いふ。老らう婆ぱ花はな散さん。盞さん子こ成なり取とり出です。行ぎやう者しやう小こ渡わたせ。就すなはち半はん盞さん。三さん藏ざう入いる。三さん藏ざう一いつ口こうを飲のみ下くだす。此こゝろへ人ひと心こゝろは。八はち戒がい曰いふ。我われハ盞さん子こト。吊つら桶ぐ。飲のみ下くだす。婆ぱ大おほい小こい。和わ尚しやう此こゝろ水みづを。飲のみ下くだす。腸ちやう子こハ肚はら子こ

中 都く化尽し忽ち死せんといふを。数子大い小強死又盡す。或は痛く
 僅小半盡を吃ひ終る。女阿有く三藏八戒し。小腰中絞痛。鼓
 鼓轉々々。五六停賜鳥て。数子堪。大小便を席上小垂流せ
 む。三藏も静所小行ん。を要む。行者が曰。師又振小風地へ出さ。あ
 を。恐く。風邪小冒され。産後疾を弄出さん。左右をさうち。兩
 個も。肚子の疼痛任。漸々小腫脹。血團肉塊と見。化
 化。始く生小飯。心地。歡喜。限。老婆。此裏小
 白米粥を煎く。兩個小進。長者們。産后。吐。力。是
 を吃。盛を補ひ。八戒が曰。粥。魚先湯を焼く。洗個
 澡。世。然。一。倍粥を吃。沙僧が曰。哥。洗。足。は
 坐。月子の人湯を弄。新。病を生。八戒が曰。然。我。八戒の産。

らす。只是小産。わね。苦。老婆。大。小。則。湯を
 焚。兩個。小。手。脚。を。淨。三。藏。悦。白。米。粥。を。兩。盞
 食。八。戒。小。引。之。七。八。盞。を。吃。猶。飯。を。吃。せん。要。む。
 行者。憫。果。汝。産。后。小。斯。大。食。せ。汝。包。肚。の。病。を。了。と
 け。八。戒。已。を。筋。を。收。り。何。小。王。の。老。婆。三。藏。小。向。ひ
 願。く。を。残。ま。る。水。を。我。小。賜。ん。や。と。請。三。藏。白。我。小。有。く。无。益
 水。わ。れ。が。心。小。任。せ。の。何。小。を。老。婆。大。小。悦。ひ。吊。桶。小。残。ま。る。水。を
 瓦。碓。小。は。り。返。り。地。下。小。埋。時。是。を。り。見。れ。何。如。何。と
 乃。か。と。真。水。と。名。づ。け。斯。家。裡。乃。女。幸。小。く。水。を。行
 々。歡。喜。每。飯。を。整。頓。四。衆。を。り。か。れ。師。徒。大。小。悦。ひ
 其。夜。一。宿。次。の。日。猿。裝。を。調。老。皮。小。厚。一。針。村。舎。と。出

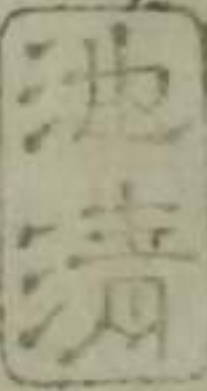
減く小行者くわうこくわう功こう勞らう而に鬼おに孕ごををねねれれるるハ正ただふ是こゝ

洗せん浄じやう口くち業ごう身しん乾かん浄じやう

銷しょう化くわ凡ぼん胎たい體たい自じ然ぜん

是こゝよりより四よ衆しゆをを西せいをを望のぞみみてて走はるる畢ひ竟きやう那なのの地ち方はうふふりりてて追おひひ追おひひてて糸いと

三さん世せい漏ろうれれてて分ぶん解かいるる一いつ心しん一いつ池い濟じ



公こう僧そう水すい西せい遊ゆう記き二に篇ぺん卷くわん之の十じゆ大だい尾び

題だい禹う詩し刪せん 全ぜん二に冊さく 題だい禹う詩し選せん 全ぜん壹いつ冊さく

美み疑ぎ先せん生せい撰せん輯じ 書しよ畫くわ比ひ白はく宜い小せう水すい二に冊さく

書しよ家か必ひつ用ようのの小せう冊さく諸しよ君くん子し常じやう小せう案あん上じやう小せう備び置ちぬぬききてて 其その自その在そのとと得とくるるとと書しよとと披ひききてて 必ひつ推おししるる易いのの珍ちん寶ぼうもも可か智ち小せう冊さくありあり

書しよ肆し 大だい阪はん北ほく久く寶ぼう寺じ町ちやう心しん齋さい橋はし 河か内ない屋や源げん七しち郎らう梓す

